

霧ヶ峰で自然を守る

2016年夏 江戸川大学自然愛好会 活動報告

江戸川大学自然愛好会は、長野県諏訪市の霧ヶ峰自然保護指導員を毎年務めている。今年の夏は11人が共同生活をしながら、自然保護や自然観察会の開催など様々な活動を行った。(取材:土唐省吾 撮影:信瀬麻由)

霧ヶ峰自然保護指導員とは、長野県諏訪市教育委員は、長野県諏訪市教育委員は、生涯学習課文化財係に所属する臨時職員だ。その歴



観光地として有名になったために来訪者のマナーの問題などが発生している。



ヨツバヒヨドリに蜜を吸いにきた色鮮やかなアサギマダラ。



マツムシソウ、この花が自らの観光客もおおい。

史は今期で56年と長い。今年には江戸川大学、千葉大学、信州大学、東邦大学の4大学が参加している。

からの委託業務にそって、その日の仕事内容から生活に至るまでを学生が主軸になって行っている。霧ヶ峰という素晴らしい自然の中で仕事をできるだけ、霧ヶ峰を学ぶことができる。

小学生が4班に分かれて霧ヶ峰の動植物を観察し、6つ気に入ったものを選び、自分だけの「オリジナル霧ヶ峰図鑑」を作った。当日の運営を担当した井

江戸川大学からの参加者は現代社会科学科4年川辺太郎、染谷嵩久、齋藤雄、3年信瀬麻由、2年及川暁

業務内容は、天然記念物である3つの湿原と周辺地域の保護だ。霧ヶ峰一帯の草原の管理・保護・来訪者への案内等も行っている。

具体的には、①人・ペットなどによる湿原・草原への立ち入り、動植物採集の予防・防止、②植物や自然の解説、道案内、施設案内、③観察会の実施、④看板・柵・木道の設置、補修、⑤美化(ゴミ拾い等)だ。

井出暁平、経営社会科学科1年角田大成、情報文化学科

1年内山かの子、宮津彩菜

人間の心理学科1年渡野邊真也、マス・コミュニケーション学科1年土居省吾の計11名だ(敬称略)。

仕事の期間中は皆で一つの山小屋に宿泊し、諏訪市の

他にも8月13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日)に当日の来訪者を対象とした「自然観察会」を1日3回開催した。所要時間は30分~40分、来訪者の方々に霧ヶ峰を認知してもらい自然を楽しんでもらうだけでなく、来訪者との交流を図ることができた。

右: 染谷さん、左: 川辺さん。江戸川大学チームのまとめ役だ。



右: 染谷さん、左: 川辺さん。江戸川大学チームのまとめ役だ。

① 霧ヶ峰とは

霧ヶ峰は八ヶ岳中信高原国定公園の中の長野県に位置する火山活動によって作られた高原。年間約300万人もの人々が訪れる観光地だ。車山湿原、八島ヶ原湿原、踊場湿原の3か所の天然記念物に指定された湿原や貴重な自然がある。

鎌倉時代から火入れや放牧が行われてきた。人と自然が密接に関わりあってきた地である。初夏には草原を黄色く染め上げるニッコウキスゲ、情熱的な赤色が美しいレンゲツツジなど色とりどりの花を見ることが